

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.30



今年も九州や中国地方をはじめ各地で線状降水帯が発生し、大雨被害をもたらしています。昨年、当市も大規模災害を現実経験し「明日は我が身」という危機感をお持ちの方もいるかと思いますが。自然災害の前では人間は無力ですが、いざ起こった時に被害を最小限に抑えるための備えは不可欠です。幸い、今年度に入って複数の町内や住民協議会が新たな「自主防災組織」を設立し、防災への意識が醸成され始めており、心強く感じています。今後も、研修会、勉強会などご要望があれば市では積極的にご協力しますので、お気軽にお問い合わせください。

★「コロナ脱却」の象徴となる「五所川原立佞武多」が開催!

いよいよ8月4日から4年ぶりにフルコースでの「五所川原立佞武多」が開幕します。今回は立佞武多運行開始25周年の節目ということもあり、「かぐや」「暫」、新作の「素戔鳴尊(すさのおのみこと)」の大型立佞武多3台をはじめ各団体ねぶたの運行に加え、本町通りで「やってみゃ〜ストリート」、多くの親子連れでにぎわう「親子de立佞武多」など、特別な催しが目白押しです。

今年度から立佞武多の曳き手の一般公募を開始し、大変多くの個人、団体の方々から積極的に申込をいただきました。多くの市民の皆さんが主体的にまつりを盛り上げたいという意思の表れであり、喜ばしく感じています。今回の一般公募は、できるだけ多くの市民の方に実際に参加していただき、その感動を体感し、地域に対する愛着や誇りにしてもらいたいという思いから企画したものです。また、今ではまつりの目玉の一つとして定着してきた「親子de

立佞武多」ですが、子育て世代であり、地域の未来を担う青年会議所の皆さんが担当することは非常に意義があると思っています。今や、当市を語る上で欠かせない存在の「立佞武多」ですが、観光資源としてだけでなく、地域コミュニティの醸成や子どもたちの健全育成、さらに「市民協働」によるまちづくりへの意識を高めるきっかけとなるまつりとして、一人でも多くの市民の皆さんに気軽に参加していただき、これからますます進化させていければと思っています。

★「地域力」の向上のために行政が果たすべきこと

本格的な「脱コロナ」の初年度である今年は、9月以降も「しうらグルメカーニバル(9月30日)」「キッズフェスタ2023 in五所川原(10月1日)」「ホコ天マルシェごしょがわら(10月7日)」「うまいもんフェスタ in かなぎ(未定)」など市内各地域で多様なイベントが開催されます。

地域活力を生み出す上でイベントやまつりは必要不可欠な要素ですが、これらは、継続性、経済性の観点から、行政が主体となるべきではないというのが私の基本的な考えです。民間で組織する実行委員会が主体となって実施し、行政がバックアップするという形が本来あるべき姿であると思います。どうしても行政主体となると行政の行動原理に縛られ、発想も限定的になることは否めません。

イベントに限らずですが、市民や民間団体など多様な主体がそれぞれの個性と発想を生かし、横のつながりを深めながら、1+1を3以上にする相乗効果を生み出せるように、行政はサポートや仕掛け作りなど「裏方」としての役割をしっかりと担いながら、市民協働により「地域力」の向上を図っていきたくと思っています。



昨年度の「五所川原立佞武多」での「親子de立佞武多」の様子



昨年度の「ホコ天マルシェごしょがわら」のにぎわい



宮下宗一郎青森県知事

「五所川原立佞武多」運行初日(8月4日)に参加します!

立佞武多運行初日の8月4日、私、宮下宗一郎も参加します!
五所川原市民の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています!